



躍動する才能と新たなアートの潮流を体感する3日間
国内外の若手アーティスト40組が京都国立博物館 明治古都館に集結！

「ARTISTS' FAIR KYOTO 2026」開催決定

開催期間：2026年2月21日(土)～2月23日(月・祝)



鷹野隆大・笹岡由梨子がアドバイザリーボードに初参加、公募選考委員も新体制へ

京都府、京都新聞、ARTISTS' FAIR KYOTO実行委員会は、歴史と伝統が息づく京都を舞台にしたアーティスト主導のアートフェア「ARTISTS' FAIR KYOTO 2026(アーティストズ フェア キョウト)」(略称：AFK2026)を2026年2月21日(土)から2月23日(月・祝)まで開催いたします。

本フェアは、次世代のアーティストが世に羽ばたくためのきっかけづくりとして、来場者とアーティストが直接対話する新しいスタイルの場として、9回目を迎えます。ディレクター椿昇のもと「Singularity of Art(シンギュラリティ オブ アート)」をテーマに掲げ、従来のアートフェアの枠を超えた新たなアートシステムの創造を推進しています。

出品アーティストは、アドバイザリーボード(若手アーティストを推薦するアーティスト)による推薦と公募により選出された、可能性溢れる若手アーティスト40組に決定しました。今回、アドバイザリーボードには、総合開館30周年を迎えた東京都写真美術館での展覧会でも注目を集めた鷹野隆大とAFK2019に招待作家として参加し、今や国際的な活躍を遂げる笹岡由梨子が初参加。加藤泉、名和晃平、ヤノベケンジら第一線のアーティストとともに、次世代の才能を推薦します。また、公募によるアーティストの選考を担う委員には、ディレクターに加え、黒澤浩美、保坂健二郎、山本浩貴の3名が参加。アドバイザリーボードによる推薦と、選考委員による多角的な視点と審査を経て選ばれたアーティストによる作品が、メイン会場に集結します。

メイン会場となる京都国立博物館 明治古都館は、1895年竣工、1969年に国の重要文化財に指定された歴史ある建造物です。「宮廷建築家」と呼ばれた片山東熊による設計で、外観はフランス・ルネサンスーバロック様式を特徴とし、正門から続く噴水やオーギュスト・ロダン《考える人》とともに京都の文化的景観を象徴しています。AFKでは2024年から通常非公開の玄関・中央ホールをメイン会場としていましたが、今回、展示室もふんだんに活用するなど使用エリアを拡大し、ペインティングからインスタレーション、映像、立体まで、多彩な表現の交差をお楽しみいただけます。歴史都市・京都で躍動する才能とともに、新たなアートの潮流が生まれる瞬間を、ぜひご体感ください。



※本文中、敬称略

京都国立博物館 明治古都館(中央ホール)2025年の様子

プロジェクトに関するお問い合わせ

京都府、京都新聞
ARTISTS' FAIR KYOTO実行委員会
(事務局：京都府文化生活部文化芸術課)
<https://www.artists-fair.kyoto/>

取材・掲載についてのお問い合わせ

取材依頼、画像提供、ご不明点などお気軽にお問い合わせください。
広報担当：篠原礼子 (liil inc.)
E-mail:reiko@liil.com / Cell : 090-3535-9012

● 広報用画像はこちらからダウンロードいただけます
<https://rebrand.ly/rba952h>



■ ディレクターからのメッセージ



ARTISTS' FAIR KYOTO
ディレクター 樫原

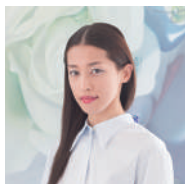
2006年の初夏。僕はトロントにいた。2003年に水戸芸術館で開催した「国連少年展」の派生プロジェクトがいくつかあり、その一環で国連少年のダイジェスト版を展示することになっていた。当時Houdini(フーディニ)開発者の友人とも会えるし、ボストンに寄ってメディアラボにも行ったことなど、記憶は多々あるはずなのに、今では展示を手伝ってもらった移住組のKさんの話しか脳裏にない。紙面の関係で詳しくは語れないが、かいつまんで言うと「公園で毎月絵を販売する会があって、その売り上げだけで郊外に奥さんとお子さん二人で暮らす家を購入して暮らしている」。「普通にトロントで暮らす人はしゅっちゅう絵を買いにくる」。「10年くらいやっていくうちに人気が出てギャラリーと契約した」。日本では考えられないような事実をボソボソ話す彼に、僕は心底打ちのめされた。

前後して、ロンドンでロイヤル・カレッジ・オブ・アートやセントラル・セント・マーチンズの修了展がアートフェアになっている事も体験して興奮した。このときに体感した「絵で喰えるんだ!」と言う確信こそが、9回目を迎えるAFKに繋がっているのは間違いない。こうして極寒の京都に集まってくれたアーティストたちにも、僕が経験したようなインベーション・コアに遭遇してもらえるよう、さらなるステージをスタッフとともに発明したい。

■ アドバイザリーボード16組(若手を推薦するアーティスト)



池田光弘
撮影: Mahiro Tsuruda



薄久保香
撮影: Kenshu Shintsubo



大庭大介



大巻伸嗣
撮影: 市川勝弘



オサム・ジェームス・中川



加藤泉
撮影: Guillaume Ziccarelli



鬼頭健吾



笹岡由梨子
撮影: Kuba Celej



鷹野隆大
撮影: 山崎美奈



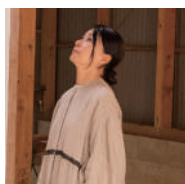
田村友一郎



津田道子
撮影: 奥祐司



名和晃平



ミヤケマイ
撮影: Norio Kidera



ヤノベケンジ



Yotta



ロバート・ブラット

■ 公募選考委員

現代アートのエキスパートによる多角的な視点からの審査を通じ、公平性と多様性を兼ね備えた選考が実現しました。



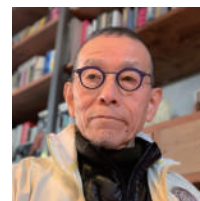
黒澤浩美|公益財団法人石川文化振興財団ラビットホール
ディレクター、株式会社ヘラルボニー CAO、東京芸術大学
特任教授
撮影: Yuna Yagi



保坂健二郎|滋賀県立美術館
ディレクター(館長)
撮影: 木奥 恵三



山本浩貴|文化研究者、
実践女子大学准教授



樫原|現代美術家、京都芸術
大学教授、ARTISTS' FAIR
KYOTO ディレクター



■ 出品アーティスト

【若手アーティスト：40組】[]内は推薦アーティスト、又は公募選出者 ※2025年10月23日現在

會見明也 [薄久保香] / 綾野文麿 [田村友一郎] / 安藤項司 [公募] / イケナナ [ロバート・プラット] / 伊地知七絵 [公募] / 井上息吹 [薄久保香] / 彌永ゆり子 [公募] / 小笠原周 [ヤノベケンジ] / 岡田真由美 [津田道子] / 小林太郎 [名和晃平] / 酒井千明 [加藤泉] / 澤あも愛紅 [公募] / 品川美香 [公募] / 白石効哉 [鬼頭健吾] / 白旗花呼 [池田光弘] / 高橋凜 [田村友一郎] / チョ・ウニョン [公募] / 辻大輝 [笹岡由梨子] / 椿野成身 [大庭大介] / Thomas Pepito Vauthier (トマ・ペピト・ヴォティエ) [公募] / 中田愛美里 [大巻伸嗣] / ナガタダイスケ [鷹野隆大] / 中西凜 [Yotta] / 中谷優希 [公募] / 成山亜衣 [ミヤケマイ] / 恥カ 9 / まなか [椿昇] / 長谷川翔 [公募] / 春田紗良 [大庭大介] / 広瀬里美 [大巻伸嗣] / 広田郁也 [名和晃平] / 堀江たくみ [津田道子] / 真崎茜 [ロバート・プラット] / 松岡日菜子 [公募] / 松岡柚歩 [鬼頭健吾] / 見島滯佳 [笹岡由梨子] / 関麗珊 (ミン・リセン) [ミヤケマイ] / 矢部もなみ [椿昇] / 山下雅己 [池田光弘] / Rebecca Drolen (リベッカ・ドローレン) [オサム・ジェームズ・中川] / Liliana Guzmán (リリアナ・グスマン) [オサム・ジェームズ・中川]

出品アーティストの作品イメージ(一部ご紹介)



會見明也《残像偶像 no.5 [どうなるべきか、あなたに問い続けなければいけない]》2025
アクリル、パネル、レジン
H910×W727×D50mm



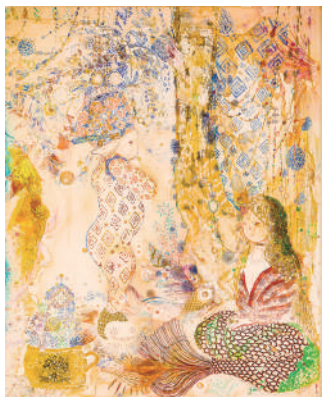
安藤項司《つくもがみ》2025
ガラス、陶土、金属線
H220×W120×D120mm



中田愛美里《a piece of cake》2025
映像7分 ap.1/ed.5



成山亜衣《nonphysical reality #2025-1》2025
アクリル、キャンバス
H1300×W1700 mm



春田紗良《あめのわたつみ》2023
顔料、金箔、蜜蝋、ムードンパネル
H1620×W1303×D30mm



矢部もなみ《Un cheval, seul, au loin》2024
樟
(中央) H2100×W600×D600mm
(左奥) H1500×W600×D600mm



■ 特徴

1. 来場者とアーティストの直接対話による体験型フェア

出品作家と来場者がダイレクトに交流することで完成する、オルタナティブでライブ感あふれるアートフェア

2. アドバイザリーボード・公募選考委員による選出

第一線で活躍するアドバイザリーボードによる推薦と公募選考委員による多角的で公正な視点から次世代の才能を選出

3. 京都全域を舞台に多彩なプログラムで早春の京都を彩る

京都ならではの歴史的建築や文化施設と連携。街全体を舞台に、早春の京都を彩る多様なプログラムを展開

■ 開催概要

ARTISTS' FAIR KYOTO 2026

メイン会場

会 場： 京都国立博物館 明治古都館（京都市東山区茶屋町527）

日 程： 2026年2月21日（土）～2月23日（月・祝）

時 間： 9:30 ～ 17:00（最終入場16:30）

U R L： <https://artists-fair.kyoto/>

< お問い合わせ >

ARTISTS' FAIR KYOTO実行委員会

T E L： 075-414-4219（10:00-17:00 / 土日祝休み）

主 催： 京都府、京都新聞、ARTISTS' FAIR KYOTO実行委員会

後 援： 経済産業省、文化庁、京都商工会議所、一般社団法人京都経済同友会



京都国立博物館 明治古都館

■ 2025年開催の様子



ARTISTS' FAIR KYOTO 2025
マイナビ ART AWARD 授賞式



京都国立博物館 明治古都館（メイン会場）



京都新聞ビル 地下1階（メイン会場）



臨濟宗大本山 東福寺にYottaによる作品《花子》が登場



臨濟宗大本山 東福寺（アドバイザリーボード展）



千總本店 千總ギャラリー（サテライト会場）
加藤泉×千總：絵と着物